

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第 32 号

辞書を読むこと

和田 四郎

外大が六甲にあった頃、阪急六甲の駅には重たそうな鞆を抱える学生とそうではない学生の二つのタイプがあった。前者が外大生で鞆の中には辞書が入っていた。歩く時も左右どちらかの肩が下がり、いかにも重たそうであったから、阪急六甲から土山町の小高い丘まで徒歩 20 分の道のりは、若いとはいえ、夏は大汗を、冬でも一汗かき、厳しい勉強前のウォーミングアップどころではなかったにちがいない。現在は電子辞書の時代であるからもはや鞆は外大生を象徴してはいない。

昔の大学の授業では *Concise Oxford Dictionary* と *Pocket Oxford Dictionary* は購入するよう勧められ、これらをトイレに置いて毎日見る人は多いと言われたので私も見習って一応の努力はした。しかし、正直なところ「面白い」と感じたことはあまりなく、辞書を引いても未知の語が目飛び込んでくる。ただ語彙力の乏しさを嘆くばかりであった。

ところが 1987 年に『コリンズコウビルド英語辞典』が出版され、その語義の説明に目の前の霧は晴れた。たとえばある形容詞をひくと “Someone who is _____ believes that things are much less complicated, difficult, or dangerous than they really are, for example because they have very little knowledge or experience of life; mainly used showing disapproval.” とある。下線部に問題の語があるのであるが、この説明を読むとわれわれは「そうか〇〇な人か」とイメージがつかめる。つまりこの「〇〇」はその人が知っているあるいは日常的に使用している日本語であるから納得しないはずはない（しかし同時に日本語の語彙力も試されるので注意する必要がある）。以前の辞書は未知の記号をまた別の記号に置き換えたにすぎないが、この辞書は記号を一度概念のレベルに高め、その概念を日本語に置き換えるという意味解釈の原則に則した記述を行っているともいえる。英語を英和辞書に載っている日本語に置き換えても記号の置き換えに過ぎないのである。

この辞書にはもう一つ仕掛けが施されている。たとえば surprise を見ると “If something surprises you, it gives you a feeling of surprise.” と “If you surprise someone, you find, catch, or attack them when they are not expecting it.” との二つの説明がある。すると John surprised Mary. という文を「John は Mary を驚かせた」と簡単に片付けることはできない。なぜならば、後者つまり <人 (someone)> が主語の場合は ‘attack’（これが原義）がその意味であり、いわゆる「驚く」という前者の意味では主語は <モノ / コト (something)> でなければならないからである。つまりこの場合の John は <John が何かをしたこと> という <モノ / コト> のメトニミーなのである。この ‘someone’ と ‘something’ はつい見逃してしまいがちな情報である。辞書は、例文も含め、よく考えながら慎重に読みたい。講演に來日した編者の John Sinclair にサインしてもらった初版は私のバイブルである。

かつてのゼミ生が *Reading the OED* という本を知らせてくれた。著者 Ammon Shea は自らを ‘word collector’ と称しているだけに、*Oxford English Dictionary* 全 20 巻を A から Z まで「読み」、その中から難語、廃語、珍語などを選んで独特のコメントを加えた本である。そのほとんどが廃語であるから読んでも実際の得になることはまずない。例えば、zyxt という語。これは ‘to see’ という意味の Kent 方言だったらしい。このようなことは知っていても知らなくてもどうでも良いのであるが、コレクターとしては OED の最後の見出し語だから外せないというのである。ちなみにこの語は Online 版では削除され、現在は zythum（古代エジプトのビール）が最後の語である。（Online 版は定期的に更新されている。）その他「一昨日」や「明後日」を表す語があったことや、「医者に行って病気になること」「ロウソクの光で勉強すること」「雨でぬれること」（注）など「なぜこのような語が？語源は？」等と考えてしまう「骨董品」や「珍品」ばかりで、このマニアックな“コレクション”にはつい引き込まれてしまう。（裏面へ続く）

Sheaの本を手元においてOEDを見るのは格好の暇つぶしになる。急いで付け加えるが、全20巻のことではなく一枚のCD-Romである。代金は5万円弱。5万円があったら留学費用の足しにと考える人は図書館(学内)のパソコンで見ると良い。学術情報センターの「オンラインデータベース」をクリックするだけでOEDを見ることができる。重たい辞書を持ち運ぶ必要もなく、しかも、何人もの人が同時に見ることができるから、科学技術の進歩には感謝したい。他にも楽しみ方は無数で、たとえば掲載されている日本語もその数もすぐにわかる。辞書は注意深く読まなければならないが、いろいろな楽しみ方が気楽にできる時代になった。

(注) これらの日本語に相当する英語は以下の<>内の語です。早速OED Onlineで調べてみてください。< elucubration, iatrogenic, impluvius, nudistertian, overmorrow >

(わだしろ 本学教授・学術情報センター長)

ゼミ図書館ガイダンスに参加して

最近ある授業で、普段何気なく見ているテレビCMについて考察する機会がありました。少し以前のものですが、ある洋酒メーカーの“OLD is NEW”というCMは名作であったという話題になりました。今はインターネット等でそういった過去のメディアも手軽に検索、共有することができる時代ですが、図書館は、まさにそのキャッチコピーにあるような新鮮さ、ワクワク感が知的に得られる宝庫だと思います。

入学以来、外大図書館といえば1Fフロアであったのが、「ゼミ図書館ガイダンス」でまだ知らなかった書庫を覗くと、本当にタイム・トリップのようでした。とても広く静かで、本、本、本…ですが、人の居ない場所でも本は長い間静かに生き続け、読まれるのを待っているように感じます。その一角には、大事に保管されている卒業論文の棚があり、ゼミの先生と一緒に見ると、これから執筆するモチベーションも自然とアップするというものです。

ガイダンスではそのような楽しさだけでなく、効率的に図書館を利用するためのポイントを得ることができました。例えば、普段多くの人が利用しているOPACですが、「件名検索」という方法を知りました。このシステムでは、その本についての情報がキーワードで組み込まれており、「フリーワード検索」とは違う効率性が得られます。

ゼミ演習は、特定のテーマについてメンバーがお互いに関心を持って深く考察し、意見を出し合ってこそ、集まる意義があるといえます。有意義な意見交換のためには、普段図書館をあまり利用していなかった人も、情報を適切に活用するスキルを備えることが第一のステップになると思います。また、ガイダンスでは司書の方々の専門知識を拝借することのできる絶好の機会です。是非積極的に参加されることをお勧めします。最後になりましたが、このような新しいサービスの提供をしてくださりましたスタッフの皆さまに厚くお礼申し上げます。

(第2部英米学科4年)

図書館より

今年度のゼミ図書館ガイダンスは4月12日より開始しました。前期は21名の先生より24コマのお申し込みがあり、208名の学生が受講しました(7月9日現在)。ガイダンスは年間を通して実施します。ご希望の教員の方は希望日の1週間前までにお申し込みください(時間・コース・学生数・検索キーワードなどをお伝えいただく必要があります)。詳しくは図書館までお問い合わせください。

外大にない本、取り寄せます

こたえるひと：橋本 真里

^{アイエルエル}
--ILLということばは聞きなれないのですが、何かの略称なのでしょうか。

英語の Interlibrary Loan の省略形です。アイエルエル、と読みます。日本語では図書館間相互貸借といいます、長いので単に相互利用と呼ぶことも多いです。ほかの図書館から図書を借りたり、文献のコピーを取り寄せたりするサービスのことです。

-- 具体的にはどんなことをしているのですか。

先生や学生さんが探している文献が外大の図書館にないとき、ILLの申込用紙に記入してもらいます。その情報をもとにして、ほかの大学図書館に、当館へ図書や文献のコピーを送ってもらえるよう依頼します。私は依頼担当なので今日は依頼のことをお話ししますが、同じようによそから依頼があればもちろん当館からも送っているんですよ。「相互」利用ですから。

時々、取り寄せ以外の方法を提案することもあります。例えば、近隣の大学図書館*1に所蔵がある場合はご本人が直接足を運ぶのが早くて、料金負担も少なくすむので、まずそちらを勧めます。また時間に余裕があるときは、利用が見込めるようなものであれば、購入希望への切り替えを勧めることもあります。どのように入手するのが最適かをいつも考えますね。

-- どんどころから本を借りたり、コピーを送ってもらったりするのですか。

取り寄せたい資料を所蔵している図書館の中で、できるだけ条件のよいところを選びます。料金設定の低いところや、早く処理してもらえそうなところ。図書を借りる場合は貸出期間も確認します。料金や貸出期間は公開されているので比較することができますが、処理が早いところは、一概には言えません。経験から得たカンに頼ることもありますね。

-- この仕事をしていて困ることはありますか。

困るというほどのことではないのですが、申し込む前にできるだけ「本当に無料で入手できる可能性はないのか」を調べていただいた方がいいな、と思うことがあります。具体的には、当館に所蔵がないか、インターネットを介して本文を手に入れることができる可能性がないか、の調査です。特に後者はどんどん増えていますし、当館で使えるオンラインデータベースの中にも、本文が見られるものがありますので、そちらも活用していただければと思います。あとは、図書の取り寄せは市立図書館からなら送料がかかりませんので、確認した上で、申し込まれるときに伝えていただくのがいいですね*2。

-- ほかに、本当に困ることはないのですか。

…うーん。そうですね。所蔵館が少ないときに、次々に謝絶（依頼を断られること）の回答をもらおうと焦ります。

-- では、うれしいときはどんなときですか。

サービスを利用された方にお礼を言っていただけるときです。特に、市場に流通していない、つまりいくらお金を出しても買えないということですが、そういう文献は、普通は持っている図書館から借りる以外に手に入れる方法がないですよ。必要にせまられて申し込まれた方から、感謝のことばをいただけたときはやはりうれしいです。

あとは、到着のお知らせをメールでお送りするのですが、連絡してすぐに取りに来てもらえるのを偶然見かけたりすると「急いで処理してよかった！」と思いますね。

-- 最後に、図書館を利用する人にひとこと。

外大の図書館にないものも、金額的に折り合いがつけば*3かなりの確率で入手できますので、カウンターで相談してみてください！

(はしもと まり 相互利用担当)

*1 学園都市内で協定を結んでいる大学の図書館(神戸芸術工科大学・兵庫県立大学・流通科学大学・神戸市立工業高等専門学校・神戸市看護大学)。学生証を持参すれば資料の閲覧・複写をさせていただきます。事前に外大図書館のカウンターで手続きをすれば貸出も可能です。

*2 神戸市立図書館の蔵書は、外大図書館の蔵書と同時に検索できます。検索画面のチェックボックスで選ぶことができます。

*3 図書を取り寄せる場合で1,080～1,500円(送料)、文献複写の場合で300～1,000円(複写料+送料)が一番多いケースです。前者は図書の大きさや重さ、後者はコピーの枚数で変わります。国内に所蔵がなくBritish Libraryに文献複写を依頼する場合は、枚数に関わらず1件2,315円です。

2009年

- 11月10日 トライやるウイーク受入(2名)
30日 センターだより第31号発行
図書館実習生受入(1名 12月8日まで)
※ゼミ図書館ガイダンス 11月2回実施
- 12月1日 展示「司書のおすすめD」第7回
トライやるウイーク受入(2名)
2日 ロビーにプリンタ2台設置
7日 長期貸出開始
17日 兵庫県大学図書館協議会研究会・ワーク
ショップ DRF/ShaRe-Hyogo 開催
(於関西学院大学)

2010年

- 1月5日 新聞データベース2種供用開始
2月19日 公立大学図書館協議会近畿地区協議会
総会・講演会開催(於本学三木記念会館)
- 4月1日 GVRL新規21タイトル追加
展示「司書のおすすめD」第8回
3日 大学院(英語教育学)オリエンテーション
5日 学部オリエンテーション
大学院オリエンテーション
6日 研究生オリエンテーション
12日 日本語プログラム新入生オリエンテーション
ゼミ図書館ガイダンス開始
※ゼミ図書館ガイダンス 4月16回実施
- 5月 ※ゼミ図書館ガイダンス 5月3回実施
6月1日 展示「司書のおすすめD」第9回
17日 ロビー展示「名誉教授・故長田夏樹先生を
偲んで」
※ゼミ図書館ガイダンス 6月4回実施

外国新聞のデータベースを 導入しました

2010年1月に外国新聞のデータベース「Image e-Edition Newspapers」「NewspaperDirect Library PressDisplay」を導入しました。紙のように配送待ちをすることなく、発行日当日に紙面を読むことができます。記事は、紙と同じ内容・レイアウトで提供されず。また収録されている複数の新聞を横断検索できるなど、データベースごとに便利な機能も用意されているので、ぜひ活用して下さい。館内のデータベース用パソコン、または学内のインターネットに接続しているパソコンから利用できます。[図書館ウェブサイト→オンラインデータベース→資料タイプ:新聞記事]の以下のデータベース名からアクセスしてください。

電子ブックで利用できる タイトルが増えました

2010年4月に Gale Virtual Reference Library の電子ブックを追加購入しました。これまでの3タイトルから24タイトルと大幅にタイトル数を増やし、収録している内容も教育、歴史、法律、文学、多文化研究、社会科学など様々な分野の事典が利用できるようになりました。一部の事典では音声ファイルが提供されているので、読むだけではなくリスニングなどにも利用できます。紙の図書の場合、事典類は貸出していないので館外へ持ち出すことはできませんが、電子ブックなら館内はもちろん図書館以外でも利用できます。館内のデータベース用パソコン、または学内のインターネットに接続しているパソコンから利用してください。[図書館ウェブサイト→オンラインデータベース→資料タイプ:電子ブック]からアクセスできます。